

日本キリスト教団
長崎銀屋町教会
『週報』

VOL.127 NO.47 2019年2月17日
降誕節第8主日



【2018年度 聖句】「わたしは復活であり、命である」

ヨハネによる福音書11章25節

【2018年度 標語】「キリストの命を生きる」

～定期集会案内～

- | | | |
|---------------|----------|-----------|
| ○主日礼拝 | 日曜日 | 午前10時30分～ |
| ○教会学校 幼小科・中高科 | 日曜日 | 午前 9時30分～ |
| ○聖書研究・祈祷会 | 水曜日 | 午前10時30分～ |
| ○夕べの礼拝 | 第2、第4金曜日 | 午後 7時00分～ |
| ○入門講座 | 随時 | |

〒850-0854 長崎市銀屋町1-5 電話・FAX 095-823-0667

牧師：竹内款一 E-mail: ginya_church@ybb.ne.jp

ホームページ <http://www.giocities.jp/ginyamachchurch/>

主日礼拝 次第

2019年2月17日 降誕節第8主日

司式：山住輝和 奏楽：西 眞弓
安川 徹

前	奏		奏楽者
○招	詞	イザヤ書55章10節	司式者
○讚	詠	I-546	一同
○交	読	詩編147編1~11節	”
		(旧約：p987)	一同
○使徒信条		(讚美歌添付)	”
○主の祈り		(讚美歌添付)	”
○讚美歌	53		”
聖書		ルカによる福音書8章4~15節	
		(新約：p118)	司式者
祈	禱		”
○讚美歌	412		一同
説教		「種まく人」	
			竹内款一牧師
祈	禱		”
○讚美歌	566		一同
献金			”
○頌栄	24		一同
○祝後報			竹内款一牧師
			奏楽者
			司式者

○の印がついた部分ではお立ちいただきますが、立つことの難しい方は座ったままで結構です。

★「讚詠I-546」、「頌栄24」
「使徒信条」、「主の祈り」などは、
座席に備え付けのものもあります。
ご覧ください。

★「交読」は、一節ずつ
司会者と会衆が、交互に
読みます。
最後の一節は全員で
読みます。

★「讚美歌」は、拡大したのもの
ございます。ご入用の方は
受付にお申し出ください。

★「補聴器」、「点字聖書」も
ございます。ご入用の方は
受付までお申出ください。

★礼拝堂2階には、
フリースペースがあります。
こどもの遊び場、礼拝中の授
乳や、くつろぎの場としてお使
いいただけます。

★何か分からない事がありましたら、
お気軽に受付におたずねく
ださい。

◇◇◇ 予 定 ◇◇◇

◇ 3月3日(日) 3月役員会

◇ 3月10日(日) 礼拝後 「臨時教会総会」

今週の祈り

- ◎すべての人にキリストの恵みと平和がありますように。
- ◎被災された方々に慰めと平安を。日々の歩みが守られますように。
- ◎礼拝に出席できない方をおぼえて、主の恵みと平安を。

本日の教会学校

- ◇幼小科礼拝 (9:30～ 記念館1F)
説教 竹内款一 奏楽 大岩しのぶ
- ◇中高科礼拝 (9:30～ 記念館2F)
説教 奥野多津子 奏楽 中尾恵美

本日の礼拝当番

藤澤裕子 伊藤淑子 福島順子

本日の予定

- ◇ティータイム ◇聖歌隊練習
- ◇シオンの集い総会

次週〈2月24日〉教会学校

- ◇幼小科・中高科合同
説教 奥野政元 奏楽 大岩しのぶ
(9:30～ 記念館2F)

次週〈2月24日〉主日礼拝

【降誕節第9主日】

説教：「まるごと受け止めるイエス」

竹内款一牧師

聖書：ルカによる福音書

5章12～26節

交読：詩編103編1～13節

讃美歌：514, 446, 484, 頌栄24

【司式】西 眞弓 【奏楽】直塚真理子

【礼拝当番】

藤澤裕子 前田恵美 渡部克子

次週〈2月24日〉礼拝後の予定

- ◇ティータイム ◇聖歌隊練習
- ◆「地域と教会」伝道協議会
14:00～ 羽犬塚教会
「フィリピン社会と教会のはたらき」
シャル・ガボンリー牧師を迎ええ

今週の予定

◇聖書研究・祈祷会

2月20日(金) 10:30～12:00
ルカ福音書17章1～19節
司会：井形和子

◇金曜日夕べの礼拝

2月22日(水) 午後7～8時
「たとえ全世界を手に入れても」
マタイ福音書16章12～27節
讃美歌：217, 493, 24

【牧師予定】

- ・18日(月)…西南地方会と九州教区協議会
- ・19日(火)…伝道センター委員会
- ・20日(水)…時津こぼと保育園聖書研究
- ・21日(木)…八幡町保育園誕生日会・聖書研究
- ・22日(金)…鎮西学院高等学校授業
- ・23日(土)…長崎地区委員会

報 告

◎2月役員会報告

- ▶ 第3回全体懇談会のふり返しを行った。概要を教会報等に掲載する。
- ▶ 臨時教会総会(3/10)の準備を行った。次年度の宣教方針や計画、次年度予算案を策定した。
- ▶ 次年度の世界祈祷日は当教会となる。役員会からの担当者として西眞弓さん朝長佳子さんを選任した。
- ▶ 長崎地区総会(3/17 14:30～ 大村教会)の信徒議員として、森富美さんを選出した。
- ▶ 電話を光接続に変更し、ホームページの刷新とプロバイダ変更を行う。

◎互助献金、隠退教師献金について

2月末日をもって今年度分をしめて、送金をいたします。ご協力お願いいたします。

◎《熊本・大分地震救援募金》

ご協力をお願いいたします。

※2018年度累計：101,662円(2/10まで)
感謝をもって報告いたします。

讚美歌290番「踊り出る姿で」は、“Lord of the dance”というメロディーに、シドニー・カーターさんが1961年に歌詞をつけ、これが訳されて『讚美歌21』にある。シドニーさんは第二次大戦中、良心的兵役拒否をする人々と出会い、この時の経験がのちの生き方に大きく影響したとも言われている。主イエスと共にあって命生きる人々の喜びを大切に思う気持ちが、この讚美歌にも現れていると思う。自由と愛をもって、人々の間で歩んだイエスを讃えているからである。

自由と愛がおびやかされることがある。1943年の戦時中、長崎崎陽教会が解散させられた。文部省から解散命令書が届いた。その理由は、天皇に対する不敬というものだった。キリストを主とし、王の王、君の君とすることは不敬だと。この教会はホーリネスの教会だった。この教会は自らの信仰に立って、自由と愛をもって、天皇を主とすることを斥け、イエスを主としたのである。こうした背景を持つ日本基督教団は、2月11日を「信教の自由を守る日」とした。

私はこの讚美歌を歌う時、人は主が愛したその命を喜びをもって生きることへと招かれているように思う。

今日の聖書は、主イエスが安息日に新しい世界を造り出すようなことをしたことが、伝えられていると思う。ファリサイ派の人々に否定されたとしてもである。手の萎えた人が会堂にいる人々の真ん中に立って癒されて、その人の新しい日が始まったのだから。喜ばしいことだったに違いない。それは踊り出るほどのものだったはずだ。使徒言行録3章では、主イエスの名によってなされた癒しによって、まさに踊りながら神を賛美している様子が描かれている。

ファリサイ派の人たちの批判は、イエスが安息日にはしてはならないことをしたというものだ。

今、イエスはまったく新しい事をなしている。そして律法の範囲内に収まらない。しかし律法の本質や本筋を反故にしているのではない。なぜなら、命が生かされる喜びをあらわにしているからである。

そして、イエスは安息日の主なのである。それは、イエスを神の子と見ることがなければ、当時のユダヤ社会では決して分からないことだった。でも、イエスは安息日の主なのである。イエスは安息日を新しいものにした。いや、新しいというよりは<本来のもの>にしたと言って良い。

安息日について語る創世記2:1-3を見ると、神があらゆる命を産みだしたことが語られる。そして、安息日があるのは、あなた自身、そしてあらゆる命が存在することを喜ぶためだ。

また安息日は、人が「主によって贖われたこ

と」と強いつながりがある。贖うとは経済的な用語で「買い戻す」「取り戻す」を意味する。十戒（出エジプト20:8-11）を見ると、かつて奴隷だった民が、本当は神に愛された者として贖われたことを喜ぶのが安息日だと分かる。命をとりもどす喜び、本当の自分を取り戻す喜びが、この安息日にはある。

「〇〇してはいけない日」ではなく、あなたは神の愛のゆえに生まれた。生かされて来た。そして今がある。その今と命そのものを喜ぶために、安息日がある。あるいは、かつて失われた命の尊厳、それを取り戻すのである。

この安息日をめぐると論争は、もはやイエスにおいては、かつての民族宗教的な状態は越えられていく。律法理解では収まらない。神の子は現に生きており、生きて人々をさらに生かそうとするからだ。それは、ルカ福音書が今後も示していくように、民族の囲いを超えて行く。

また、この安息日をめぐると話は、キリストの復活ともつながっているだろう。主イエスは手の萎えた人に対してこのように言っている。

「立って、真ん中に出なさい」（8節）。

「立つ」とは、重要な言葉である。「立ち上がる」という言葉と相まって、それは復活を示す言葉として用いられる。復活は、罪や死から立ち上がることを得させるものである。罪ある弟子たちも、復活の主イエスによって赦され、生気を取り戻し、そして新たに立ち上がって宣教の旅路へと送り出されて行くからである。

安息日は、神の前に命が尊ばれ、生気を取り戻し、また立ち上がって行く日である。それゆえ、古からキリストは、主イエスが復活された日曜日に集うようになった。この日を「主の日」「主日」と言う。

ルカ福音書が示す復活の記事にはこのようなものがある。「イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた」（ルカ24:36）。

今回、手の萎えた人は、「立って、真ん中に立ちなさい」と言われている。キリストが復活された時の状況と、今回の箇所とは無関係ではないだろう。両方の記述を思い起すことができるようにルカは伝えているだろう。

安息日を通して、また主の業を通して、人が“立ち上がって行く”ことこそ、神の本意であると分かる。自らの命が与えられている事、一人一人に尊い命が与えられていることを、これを主の祝福の内に受け止め、感謝し立ち上がって行くこと、主イエスはこれを心から願っている。

私たちは、この主イエスの想いのゆえに、この主イエスの命注がれたことのゆえに、立つ。なぜなら、私たちの主は他でもないこのイエスだからである。